



いきいき集会～ユニセフ募金～

今朝のいきいき集会は、ユニセフ募金へのお知らせを運営委員会が行ってくれました。先ず「5900万人」というスライドを提示し、これが何を表すのかを全校児童に考えさせました。(この通信を読まれている方も考えてみてください。ヒントは「小学生」です。)

これは、世界で小学校に行くことができない小学生の数だそうです。貧しすぎたり、働かなくてはならなかったりすることが理由だそうです。また、右のようなスライドを提示し、「すべての子どもたちに、□を。」のフレーズの中の□に入る言葉を考えさせました。Zoom 上で各教室から手が挙がり、3年3組は「自由」、5年2組は「幸せ」、6年2組は「教育」と答えました。この答えは全員が正解だそうです。このポスターはユニセフが制作しました。ユニセフとは「国際連合児童基金」といって、国連の機関です。世界の子供たちが気候変動や環境悪化の危機を乗り越えるために、そしてみんなで持続可能な未来に向かうために、何ができるかを考えました。それぞれが□中の言葉を考えることが大切なことだと思いますが、どの学級も真剣に考え、Zoom 上で積極的に手を挙げていたことが素晴らしいと思いました。

さてユニセフ募金ですが、その寄せられた募金で上図のように、世界の子供たちの命と健やかな成長を守るために活動しています。それを支えるための募金活動を本校では、7日(水)～9日(金)まで、朝から各学年の廊下で、運営委員会の子どもたちが行っています。ご協力いただけたら幸いです。

今回の集会の感想交流です。運営委員会の子供が「ユニセフ募金をしたいと思いませんか？」のインタビューに対して2年生の子供は、「全ての子どもに自由があるわけではないので、食料や学習の物を(募金をして)届けたいと思います。」と答え、4年生の子供は「私たちは、普通に勉強したりご飯を食べたりすることができるけど、外国の子供たちの中にはそれができない子供もいるから募金したいです。」と答えていました。また、6年生の子供は、「帯西レンジャーのどの心が伸びましたか？」の問いに「『🐙 帯西ブルー』の心です。それは、世界には学校に行けない人やご飯も食べることができない子供たちがいるので、少しでも募金をしようと思ったからです。」と答えていました。

世界では、いまだ年間520万人、「約6秒に1人」の乳幼児が次々に命を落としているそうです。しかもこうした命のほとんどが、予防接種で簡単に防げる感染症や下痢による脱水症、栄養不良など、私たちの住む先進国では考えられないような理由で失われているのです。

小さな善意が集まることで、世界を変えるような大きな力に変わると信じています。

